

県立図書館だより

今月の主催事業のお知らせ

—今月県立図書館で開催される行事を紹介します—

第1回秋田ふるさとセミナー

3階多目的ホール

期日：7月7日（木）13：30～15：00 講師：フリーライター 藤原 優太郎 氏

『いにしへの創造空間「山の道」を訪ねる』

申し込み・問い合わせ：1ヶ月前から申し込み受付開始します。閲覧室カウンターの所定用紙、電話、またはハガキでお申し込みください。定員は50名です。参加費は無料です。

お問い合わせは秋田県立図書館奉仕班 企画協力担当まで



昨年の第1回秋田ふるさとセミナーより

図書館協議会の開催について

図書館協議会は15名の委員で組織された協議会です。

期日：7月20日（水）13：00～15：00

場所 県立図書館 3階 多目的ホール

協議内容 図書館事業報告と今後の運営方針について

今月の県立図書館テーマ展示の紹介

—毎月テーマを決めて本の紹介をしています—

平成17年度 第3回展示

暮らしの中の法律入門「これだけは知っておきたい法律知識」

法律知識は一般に堅苦しくわかりにくい印象がありますが、自己責任社会が到来しつつある現代社会においては、必要不可欠な知識となっています。今回は、県立図書館が所蔵する法律関係資料の中から特にわかりやすく説明した資料を展示・貸出します。

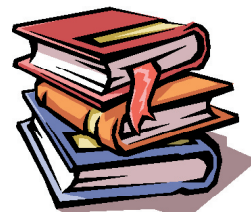
展示資料：法律全般について紹介する資料、日本国憲法を平易に説明した資料

民法、商法、刑法、労働法関係についての事例から知る資料

個人情報保護法関係、著作権法、裁判員制度についての資料

期間：6月14日（火）～7月24日（日）

場所：2階閲覧室



平成17年度 第4回展示

わくわく 楽しみ 夏休み

夏休みに向けて子どもたちの課題・自由研究になりそうな物やレジャー情報、自然に接する機会が多いと思われるので植物や動物などのテーマに関連する資料を展示・貸出します。

展示資料：自由研究（子ども用）、レジャー情報、地図、自然、動物、昆虫、天文、スポーツ

期間：7月26日（火）～8月28日（日）

場所：2階閲覧室

県立図書館司書がお勧めする一冊

—県立図書館の司書2人が毎回お勧めの本を紹介します—

書名 『ひまわりの海』 館野 泉著 求龍堂 2004.12

[推薦者 小林 祐子]

還暦を迎え物忘れは日々激しくなってきたことを実感した。というのは、先日のテレビで放映された、フィンランド在住の日本人ピアニストが病気のため右手が動かなくなり、絶望の日々を過ごして左手だけで演奏する楽譜に出会い演奏家として再出発したというのである。その演奏家の名前も本の題名も思い出せない。思い出せないと思うとどうしても読みたくなり探し出すことにした。「音楽年鑑2005」のピアノの部で、2002年1月に脳溢血で倒れて、多くのファンを心配させていた館野泉が見事に復帰を果たした。・・・まだ右手は不自由とのことだが、左手だけで弾いているとは思えない素晴らしい演奏会であった、とあった。さっそく読んでみる。学生時代に南フランスの音楽家セヴラックに出会い彼の音楽と生涯に渡って係わって行く、ひまわりの海第1章、生家の風景で、音楽は、絵画よりも鮮やかに色彩や光り、そして空気まで運んでくると感ずることがある・・・文章がリズムを踏んでいて心地よい。サン・フェリックス・ロウラゲというその村は、・・・まるで中世から何もかわっていないような静かなたた住まいを残して・・・周囲は360度、地平線まで視界が開け、豊かな大地が海のように波打ってそのほとんど全面がひまわりの畑・・・圧倒的なその輝きと中世からの静かな時の流れが身を包み言葉もない・・・「タンゴに溺れた日々」若い頃から私はタンゴ狂、その様式に込められた奔走と厳格、激情と遊び、恍惚と陶醉、そして優しさと冷酷、バンドネオンが力を入れて膝に叩きつけられる瞬間もう死んでもいいとさえ思う等。演奏旅行、音楽家たち、左手のピアニストの4章からなるが、どの章から読み始めてもおもしろい。

演奏旅行は、北欧、日本、欧米、豪州、ロシア、アジア、中近東諸国等3000回にもおよび、演奏家としてのその国の楽団に係わる人々やそのお国柄の描写がおもしろい。病気になって、左手だけの演奏を余儀なくされているにもかかわらず、音楽の喜び、音楽がまたできて聞てくれる人たちと一体になる感覚、一期一会の行為こそ演奏家の命なのだとやっている。文章の合間に演奏での思い出深い写真がちりばめられ、いっそう臨場感が湧く。お酒はたしまないが、芳醇なコニャック、吟醸酒にも似た香りと音楽を聴きながら読んでみるといっそう味わい深いのではと思う。

書名 『わっ、ゴキブリだ!』 盛口満著 どうぶつ社 2005.6

[推薦者 日野 文都]

「そうです。ゲッチョは生き物屋にしては普通の人で、そこが変です。」

生き物に係わる人間としては、これといった専門分野が欠けている「僕」。ゴキブリ嫌いの生徒たちや、ゴキブリ好きなスギモト君に出会う中で、身近に潜む最後の野生＝ゴキブリに興味を持ち始めます。ついにはその生態に迫るべく、ゴキブリを巡る探検「沖縄野ゴキ・プロジェクト」を敢行することに。

本書は、そこに至る経緯とプロジェクトの過程を描きながら、人と人とのつながりについて、それが新たな生き物との出会いを呼ぶことについて語ります。ゴキブリの生態のみならず、知人にでもない限りあまり知ることが無い「生き物屋」さんたちのイキイキとした生態(?)も窺えるこの本は、虫になんか興味ない、という人にこそおすすめしたい一冊。「知るということは、すなわち「愛する」ことにつながるらしい。」読了後には、苦手なもの・嫌いなものに対する見方が、少し変わるかもしれませんよ。

《参考図書》 『嫌われものほど美しいーゴキブリから寄生虫までー』 ナタリー・アンジェ著 相原真理子訳 草思社 1998.5 『ゴキブリのはなし』 安富和男編著 技報堂出版 1991.11

7月の休館日のお知らせ

■は休館日です。△は館内整理日です。(月の初日です。)

ご利用は2階閲覧室の図書の閲覧のみとなり、貸出等はいりません)

日	月	火	水	木	金	土
					△	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

開館時間

平日 午前10時～午後8時(4月～10月)
午前10時～午後7時(11月～3月)
土日・祝日・館内整理日 午前10時～午後5時
休館日の図書の返却は、入口のブックポストへお願いいたします。